

テーマ別パスファインダー



## 論文投稿の手順と執筆



### ✧ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2015年2月9日  
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |  
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

## I. 論文投稿

### ＜ 論文投稿とは？

論文投稿とは、学術雑誌、学会誌、論文集等に自分の研究によって発見した事柄等を掲載してもらうために、執筆した論文の原稿を送ることである。一口に「論文」と言っても、それには様々な種類がある。査読（レフェリー）付き論文とは、投稿された論文の中から審査を経て、採用された論文のことを指す。したがって業績としては査読付きの論文の方が、査読付きではない論文の評価より高いのが普通である。特に理工系分野等では、研究業績としてカウントされるのは、査読付き論文のみとされる場合が多い。また研究科等によっては雑誌がランク付けされていて、掲載された場合に業績として認められる雑誌が決まっている場合もある。自分の将来を見据えつつ、主に研究している分野で広く業績として認められる論文とはどのようなものを指すのか理解しておこう。

## II. 論文の投稿先決定から、論文の執筆、投稿までの流れを把握する

自分の研究分野を扱った論文誌の中から、投稿する論文誌を決めよう。雑誌によって論文の書式や投稿規定が異なっている。投稿規定はWebサイトまたは雑誌に掲載されていることが多い。まず、自分がその雑誌に投稿する資格があるかどうかを確認しよう。制限がなく誰でも投稿できるもの、その雑誌を刊行している学会の学会員のみが投稿できるもの、学会で発表した者だけに投稿の権利が与えられるもの等がある。また、論文の字数やページ制限から、自分の研究成果からどれほどの部分を切り取って論文にすべきかがわかる。また、予め書式などを把握しておくことで、書式ミスを防止でき、書式の訂正といった二度手間を防ぐことができる。

できるだけランクの高い雑誌で論文が発表されるにこしたことはないが、掲載される可能性が低くなる場合がある。投稿先雑誌が決まったら、最近号の論文を幾つか見て要領をつかみ、論文を執筆していこう。

### 具体的な手順をゼロから簡潔に知りたい人へ（初心者向け）

#### ＜ 日本看護協会（2013）『看護実践研究・学会発表のポイント Q&A 下巻 論文作成から投稿へ』 日本看護協会出版会

主に日本看護学会論文集への投稿論文の執筆、投稿手続のポイントや査読者の視点についてまとめた本である。表題はどのようにつけたらよいか、「はじめに」「目的」「方法」「倫理的配慮」「結果」「考察」「結論」にどんなことを書けばよいか等について基本的なことが簡潔にまとめられている。看護系の論文を書く人にとって参考になるのは言うまでもないが、看護系に限らず、論文の基本的書き方をゼロから知りたい人にはとっては参考になる部分が多そうだ。論文投稿初心者向きの本といえる。何度も投稿をしてきており、基本的なことがほとんど分かっているという人にとっては、あたりまえのことばかり書いてある印象を持つかもしれない。

【生命図-3F 南 開架図書 492.907||KAN||2】

### 心構えや全体的な流れをより深く知りたい人へ（初心者から上級者まで）

#### ＜ 今野浩（2013）『ヒラノ教授の論文必勝法 教科書が教えてくれない裏事情』中央公論新社

論文を書くにあたっての心構えを詳しく教えてくれる一冊。レフェリー付き論文、審査制度がない大学の紀要や商業誌に掲載された論文、総合報告（サーベイ）、解説（レビュー）論文、研究発表をもとにした報告書

(いわゆるプロシーディングス)に掲載された論文の違いを簡潔に解説してくれている。インパクト・ファクター(IF)についての解説、グーグル・スカラーについての紹介もある。何を研究業績とするかについて、文系と理工系とではどのように異なるのか、また、同じ理工系の中でも工学部の研究者、数学者、数理工学者の論文書きに対するスタンスがそれぞれどのように違っているのかもまとめられている。アイデアを盗まれたり、レフェリーに論文を盗まれたりといった現実には起こりうる危険についても語られており、論文界の現実を知っておくという点では一読の価値のある本である。さらに、論文投稿以外にも研究費獲得のための戦略をかなり詳しく書いており、研究費の獲得について詳しく知りたい人にもおすすめである。

【総合図-A棟2階 アカデミック・スキル・コーナー 407||KON】

＜ **R・A・デイ、B・ガステル (美宅成樹訳)2010『世界に通じる科学英語論文の書き方：執筆・投稿・査読・発表』丸善**

論文原稿をどこに投稿するかを決定するさいに考慮すべき要素や、タイトルやアブストラクト、序論の書き方についての基本的概念がある程度詳しく述べられている。

【総合図-A棟2階 アカデミック・スキル・コーナー 407||DAY】

＜ **野口悠紀雄 (2002)『「超」文章法：伝えたいことをどう書くか』中央公論新社**

投稿論文に限らず、「論述文」全体の書き方について述べている本。まだまだ論文投稿に至るには程遠い段階で、時間がたっぷりあれば読んでみるといいかもしれない。

【総合図-A棟3階 文庫・新書 089||CS||1662】

### III. 条件付き採用になったら

査読付き論文に投稿し、条件付き採用になった場合、その条件がクリアできれば採用される可能性が高いということなので、落ち込む必要はない。すぐに査読コメントに沿って、論文の修正を始めよう。どのようにリライトをしていくのかについて、根本的なスタンスは上に挙げた今野浩 (2013)『ヒラノ教授の論文必勝法 教科書が教えてくれない裏事情』が参考になる。査読者のコメントに納得が行かない場合どうするか、査読者がこちらの意図を誤ってとっている場合にはどうするか、といった判断に役立つ。

＜ **Ann M. Körner 著 (瀬野悍二訳・編) (2005)『日本人研究者が間違えやすい英語科学論文の正しい書き方：アクセプトされるための論文の執筆から投稿・採択までの大切な実践ポイント』羊土社**

具体的に編集長や査読者側とどのようなやりとりをするのかについての具体的な手順は、この本の p. 126 以降の部分が参考になる。この本は英語科学論文の書き方を扱っているが、国内雑誌への投稿においても基本的な作業は似ていると考えてよいだろう。論文そのものにおける言い回しの他に、編集長宛ての手紙の書き方・審査員による論評に対する返答の書き方なども載せられている。

【総合図-A棟4階 学習用図書 407||KOR】

## IV. 英語論文を執筆する

多くの研究分野において、国際的に認められるには英語の論文を書いて発表する必要が出てくる場合がある。そのときに参考となる本は、上で既にとり挙げた Ann M. Körner 著（瀬野悞二訳・編）『日本人研究者が間違いやすい英語科学論文の正しい書き方：アクセプトされるための論文の執筆から投稿・採択までの大切な実践ポイント』がある。その他英語論文を執筆する上で参考になるであろう本を以下に挙げる。

### ＜ 和田朋子(2013)『はじめての英語論文引ける・使えるパターン表現&文例集』すばる舎

タイトルのとおり、はじめて英語で論文を書くにあたって読む本としておすすめである。英語的な感覚を磨くためのポイントや、ぴったりの英語表現を見つけるための作業過程が説明されている上、導入、本論、結論といった論文のそれぞれの部分で「鉄板表現」が載せられている。

【総合図-A棟2階 アカデミック・スキル・コーナー 836.5||WAD】

### ＜ 崎村耕二著(1991)『英語論文によく使う表現』創元社

論文の組み立てにかかわる表現例が幾つも載せられている。似たようなシーンで使う微妙に異なる表現が沢山挙げられているため、自分が表現したいことがらにぴったりの言い方が見つけやすいはずである。

【外国図-4階開架 836||159】

### ＜ 樋口昌幸, Peter A. Goldsbury 編著(1999)『英語論文表現事典』北星堂書店

論文を英語で執筆するにあたって、書体や句読点といった細かい作法が知りたいという場合に役立つ本。コロン、セミコロン、引用符、丸ガッコとダッシュ等の使い方の説明があり、論文の構成に関わる表現例が数多く挙げられている。すでに論文の内容が固まっただけで、実際に執筆をしながら、英文ライティングの作法を確認したいという人におすすめである。【外国図-4階開架 836||237】

### ＜ ジョゼフ・ジバルディ著, 樋口昌幸訳編(2005)『MLA 英語論文の手引』第6版、北星堂書店

論文の検索の仕方、資料の記録の付け方、論文のアウトライン作成の仕方、原稿の書き方、表記の仕方、引用の仕方、学位論文、ビデオ録画、インタビュー、講演といった多種類の資料を含む引用文献リストの作成の仕方など、論文執筆の具体的な内容ではなく手順や手続きを解説している本。MLA方式が唯一の方式というわけではないが、最も一般的な書き方の一つとして型を身に付けておくことをお勧めする。

【外国図-4階開架 836||193】

### ＜ 富岡龍明(2003)『論理思考を鍛える英文ライティング』研究社

本のタイトルが示すとおり、論理的な文章を書くことを目的とした本。各章が例題と練習問題からなっている。【外国図-4階開架 836||246】

### ＜ デイヴィッド・セイン(2004)『英語ライティングルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』DHC

「文法編」「語法編」「句読法編」「アメリカ英語とイギリス英語」に分けて注意すべきポイントを解説している。【外国図-4階開架 836||250】